

Q 5 2 どのような避難方法がありますか。

A 5 2 「避難」とは、災害などの「難」をうまく「避」けることです。

「自らの命は自らが守る」ことを基本とし、以下の6つ避難行動を参考に、

指定避難所以外の避難先についても考えておきましょう。

表 6つの避難行動(1/2)







| 避難行動 | | 利点 | 欠点 |
|------|--|---|---|
| 1 |  <p>安全な親戚・知人宅への立退き避難</p> | <ul style="list-style-type: none"> 指定避難所などに比べ、他人と密集する機会が減ることによって感染症にかかる危険性が低い。 | <ul style="list-style-type: none"> 前もって、災害に対し安全かどうかを調べておく必要がある。 前もって、親戚や知人と相談しておく必要がある。 遠方にある場合、逃げ遅れにより使用できなくなる。 |
| 2 |  <p>安全なホテル・旅館への立退き避難</p> | <ul style="list-style-type: none"> 指定避難所などに比べ、他人と密集する機会が減ることによって感染症にかかる危険性が低い。 | <ul style="list-style-type: none"> 前もって災害に対し安全かどうかを調べておく必要がある。 宿泊料金がかかる。 事前に予約が必要。 遠方にある場合、逃げ遅れにより使用できなくなる。 |
| 3 |  <p>高台への立退き避難</p> | <ul style="list-style-type: none"> 車で避難する場合、指定避難所などに比べ、人が密集する機会が減ることによって感染症にかかる危険性が低い。 自宅近くにある高台を利用できるため、比較的短時間で安全な場所に避難できる。 | <ul style="list-style-type: none"> 避難するときに、土砂災害のおそれがある区域を通る危険性があるため、早めに避難する必要がある。 水や食料、携帯電話などの連絡手段などを持参の上、避難する必要がある。 |
| 4 |  <p>屋内安全確保</p> | <ul style="list-style-type: none"> 指定避難所などに比べ、他人と密集する機会が減ることによって感染症にかかる危険性が低い。 逃げ遅れた場合でも避難することができる。 水や食料などを準備することで、プライバシーが保たれた状態で避難することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 停電や断水下において浸水が長時間にわたり続いた場合、衛生環境が悪化する。 自宅の最上階の浸水が想定されていたり、土砂災害のおそれがある区域、家屋倒壊等氾濫想定区域内にお住まいの方は屋内安全確保ができない。 |

表 6つの避難行動(2/2)

| 避難行動 | | 利点 | 欠点 |
|------|--|--|--|
| 5 |  <p>指定避難所への 立退き避難</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・頑丈な施設により、洪水や土砂災害などの災害時でも安全に避難することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他人と密集することで、感染症にかかる危険性が高くなる。 ・危険を感じ、避難したいと感じていても、避難所が開かれるまで避難できない。 ・多くの人が一か所で生活するため、自宅などに比べプライバシーが保たれず、ストレスが溜まる。 |
| 6 |  <p>地区が協定を締結した企業等への立退き避難</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとに協定を結び確保した、一時的な避難場所であるため、逃げ遅れた際、比較的頑丈な建物への一時避難を行うことができる。 ・協定を結んだ地区や自治会住民の避難を想定しているため、比較的なじみのある避難路を使って避難することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・原則として協定を結んだ地区や自治会住民の避難を想定しており、ハザードマップには位置を表示されていません。また、受け入れることができる人数に限りがある。 ・他人と密集することで、感染症にかかる危険性が高い。 |